

用 語 へ の 関 心

正 員 米 元 卓 介*

去る4月に用語委員会の長年月にわたる成果として学術用語集土木工学編が発行され、一応土木用語が決定されたことを喜ぶとともに委員会に敬意を表した。僕は今回出版された学会のハンドブックの幹事の一人として、用語の統一の仕事をしてきたので寸感を述べたい。

一つのことごらを表わすのにただ一つ用語だけに限定させられるのは場合によつては味気ないものである。しかし用語をわかりやすい、よい言葉で表現することには、誰も異論はあるまい。ともかく一応標準用語を定めておいて皆がそれを知っている必要はあろう。少なくともハンドブックのような標準書では、標準用語は使うべきであるから、われわれは努めて用語委員会の採択に注意を払い、その原案のプリントを借りて仕事を進めてきたのであり、今春用語集が発行されてからはそれを頼りにしてきた。

執筆者や主査と連絡して、提出された原稿の言葉をなおしたのであるが、どなたも皆当方の考えを諒解して下さった。しかしその打合せの感じを大別すると、(1) どうでもいいから適当にやってくれ、(2) あまり感心しないがそう決まったのならそうしておけ、(3) 用語集ではそうだろうが、ここはこの言葉を使ってくれ、というようなものであった。

ともかく用語が普及していないことは確かである。ひどい表現が許されるなら「用語集は用語委員会が作ったのでわれわれの知ったことではない」という面もあるようである。あの用語集の発行前に、つまり文部省へ答申する前に、用語委員会から、各専門分野にそれぞれ何らかの形で作られて活躍している専門委員会に、用語案を内示して諮問したらよかつたと思う。そこでかなりのひろさの範囲の意見を盛り込んだ用語ができ、また多くの支持者も得られたろうし、用語への関心も深められたことと思う。もつとも用語集のまえがきによると、今回の用語集をもととして検討を続け、版を重ねるにつれて名実ともに権威ある用語集としたいということである。故に今述べた僕の希望は今後はかなえられるわけであるが、一めぐりおくれたように思われて残念である。

今回のハンドブックの編集方針としては、この用語集にたとえとかくの批評はあるとしても、これが現在の一応の標準とみなして、大体これに従うこととし

た。しかしなれないせいもあるし、執筆者の希望によつた場合もあり、また見落して製版してしまつてそのままにしたものもあつて、新旧用語の混用が大分あつて不徹底のそしりはまぬかれない。

学術用語分科審議会の用語選定方針を読んでみると、さすがに十分に考えつくされている。しかし今回の用語は当用漢字のワクにしばられて非常に迷惑をこうむっている。僕が一番イヤだつたのは当用漢字にない字をカナ書きにすること、例えば「コウ配」のような表現である。この点はハンドブックにおいては、用語及びハンドブック両委員長である福田教授の諒解を得て「勾配」を使つた。たまたまここに例示した「勾」の字の可否は別として、このような意味での文字の復活を要求したいものである。それはいわゆる当用漢字の仲間に入れてくれなくてもいいので、専門用語用文字として世間に通用させてもらいたいのである。はやりの言葉で云うと、文字は生きものである。われわれが良識の判断の下に、よい言葉、便利な文字、ウマイ表現だと認めて慣用してゆけば、その字が十年先に当用漢字に「昇格」するかも知れない。「洪」が今春当用漢字に拾われたので「コウ水」から救われたのは一つのヒントだと思う。

また当用漢字にないため、同じ発音で似たような意味の字を代りに持つてきて作った言葉もある。例えば河底の土砂堆積を滯積、挫屈を座屈と。字の意味を考えると言葉の意味が少し変つてしまつて、使つておかしくない場合もあるが、少しヘンな場合もでてくる。

用語の原案を作るまでの委員会の努力を考えると、ねころんでいてもできる批評だけをしゃべつては申訳ないとは思ふが、まだまだなおしていただきたい用語はたくさんある。去る5月のECAFE 水利国際会議でも主要8議題の一つに Standard 制定の件があつて、その中に用語も含まれていて、日本の意見もすべて取り入れられた案ができ上つたのである(英文)。用語は国際的関心事でもあるのだから、国内においても今回の用語集をもとにして新用語が改良を重ね、皆に親しまれるものに生長してゆくことを念願する。

学会で先般用語委が解散したが、この過渡期にこの委員会が全く姿を消してよいものだろうか。小規模でも委員会を常置しておいて検討を加えてゆくべきではないか。さしあつて説明付の用語集を安価に配布して用語の普及と改良に努められるように希望する。

* 早稲田大学教授、理工学部土木教室

わが国唯一の
技術文庫

OHM文庫

内容見本進呈
送料各 ¥15

301.土木機械施工の計画法 92頁 90円
建設省技術員養成所長・工博 斎藤 義治著
機械施工の主題は能率の向上が第一である。筆者は機械施工に従事している技術者、勉学中の学生のため、機械施工の合理的設計、能率的運営、正しい施工法を詳述して、機械施工の真価を発揮できるように指導と助言を与う。

302.現場コンクリートの試験方法と作業管理 160頁 140円
東大教授・工博 丸安 隆和著
コンクリート界の第一人者である著者が、文字通り現場コンクリートはいかに試験すべきか、その配合設計、骨材試験等さらに現場に亘つての品質管理の方法、理念までを全九章に亘つて詳しく述べている。土木技術者必読の書。

303.土質力学からみた道路の設計施工法 140頁 120円
日大教授 巻内 一夫著
近年交通量の増大に伴ない、土質研究の進展とともに道路構築では特に路床路盤の関係が重要視されてきた。本書はこれらの関係を平易ながらも現場で設計施工を行う際に直接活用できるように実際の数値とデータを豊富にした。

304.土質力学演習 184頁 170円
東大助教授 三木五三郎著
土木工学で最も関心を寄せられているものにコンクリートのほかに土の本質の問題がある。本書はこの道の權威によつて土の力学を十二分に究明すべく問題を要点・例題・演習問題の三つに分けて解説を試みた会心の作である。

305.アースダム 115頁 120円
東北大教授・工博 河上 房義著
ダムの中でも種々の特異性を持つアースダムについて、初心者にもわかりやすくその起源、沿革から筆を起し、アースダムの種類、材料また特殊技術による安定感からその理論に至るまで明細な図を引用して懇切に解説した。

306.砂利道の建設と補修 164頁 140円
建設省・工博 谷藤正三著
道路工学で最も面倒な部門である砂利道の建設、補修上の諸問題を力学的な検討から設計計算、工事の実施まで、著者自身の経験に基づき平易な筆致をもつて書かれており、特に複雑難解を極めている路盤の応力、耐力を究明した。

307.合成桁 92頁 100円
阪大教授・工博 安宅 勝著
鋼、コンクリート、溶接の総合技術の進歩によつて近年実用化されつつある合成桁について、その基礎理論及び計算を展開し、各種応用と施工について著者の創意を折込み平易に解説しさらにアメリカ、ドイツの資料を加う。

308.地這りとその対策 110頁 120円
建設省 福岡 正己著
最近土木工学上の問題として取上げられている地這り現象についてその基礎解説をなし、国内各地で実施された生きたデータを抜い乍ら地形調査、土質調査からの除去対策までを具体的に述べており、世界最初の文献である。

309.地震力を考えた構造物の設計法 260頁 290円
東大教授・工博 岡本 舜三著
地震の多いわが国では構造物の設計には心ず地震を考慮しなければならぬ。本書はまず地震の正体と震害の実態を述べ、その対策として建造物は勿論、河川・港湾・鉄道・橋梁等々あらゆる土木構造物の合理的設計法を詳述す。

310.プレストレスト・コンクリート部材の設計法 180頁 180円
樺東鋼弦 猪股 俊司著
コンクリート施工の新技术として急速の進歩を遂げたプレストレスト・コンクリートの原理、設計法について、著者がフランス留学中にもつた野心の書、新技术理解の道標であり、好適な入門書でもある。

日本測量協会編 測量技術便覧

測量技術者・受験者必携の実用便覧
いよいよ出現！
B6判 上製函入590頁 定価700円
基本測量から応用測量の全般を15編に分け、重要公式、数表、その他貴重なデータを網羅し、簡明な解説をなし、さらに資料編を加えて全国測量会社、測量会社の製品ないし業務内容の紹介をし、名実ともに權威ある実用便覧とした。

学理と実際とを兼ね備えた現役最高級の執筆者による講義

測量技術講座

オーム社編	新しい測量士問題解答 350題	B 6判 P. 160	価160	〒20	国家試験の新しい出題傾向にマッチした問題集で、わかり易い、詳しい解答を附す。
丸安 隆和	測量技術講座(1) 測量に必要な数学	A 5判 P. 120	200	30	実務に必要な数学を具体例により解説したもので土及び土補受験者の参考書
大久保武彦	測量技術講座(2) 測量法と測量	A 5判 P. 150	170	30	測量法の必要、測量の実施、運営の制度、科学経済生活と測量、国土調査、法令抄録。
嘉藤 種一	測量技術講座(3) 地形測量	A 5判 P. 190	250	30	地図と投影、水平曲線、地貌表現法、距離、角基準点、図根測量、トラバース測量等。
武田 通治	測量技術講座(4) 写真測量	A 5判 P. 150	220	30	多年の経験を持つ著者が高度の理論と技術を興味深く平易に解説したものの。
丸安 隆和	測量技術講座(5) トラバース測量・水準測量	A 5判 P. 150	230	30	トラバースに必要な一般要領、踏査、選点、測角と方位角、各種水準測量等を説く。
斎藤 暢夫	測量技術講座(6) 三角測量	A 5判 P. 200	220	30	位置表現法、各種座標、三角測量の骨格及び順序方法実例等に問題を加えて平易に説く。
桑原彌寿雄	測量技術講座(7) 路線測量	A 5判 P. 200	330	30	線路及び鉄道、道路運河等の測量全般につき実際役立つよう平易に解説したものの。
佐島・下村 福田・荻原	測量技術講座(8) 応用測量(河川・鉱山・農地・森林)	A 5判 P. 200	260	30	各種応用測量を河川、鉱山、農地、森林につき夫々専門家によつて解説したものの。
小山 恒三	測量技術講座(9) 地形測量	A 5判 P. 350	400	40	国土調査法に基づき、全国的に行われる地籍測量について具体的な解説をした唯一の書。
西島 敏	測量技術講座(10) 地形図の読み方と図式の説明	A 5判 P. 120	180	30	測量や登山などに絶対必要な地形図の読み方を豊富な図を加えて極く平易に実用的に解説した

土木・測量日記

昭和30年度オーム社版ポケット日記

特製鉛筆付。附録には鉄道地図名刺入れ付。日記に入必要な住所録、金銭出納簿、郵便料金表、備忘録等完備。重要諸表はオーム社自慢の最新資料を集め技術者の宝典として歓迎されている。

定価
一、二〇〇円
一〇〇円

オーム社

東京都千代田区神田錦町3ノ1 振替東京 20018
京都市河原町通り四条上ル 振替大阪 69205
大阪市大淀区長柄中通り2ノ10 振替大阪 10884